

- 1 派遣期日 令和5年10月8日（日）
- 2 派遣先 学校名（会場名）ホテルポートプラザちば
所在地 千葉県千葉市中央区千葉港 8-5

3 研修内容

○安全・安心を保証し子供集団を自立させる 学級経営編

① 4月に伝えるべきこと3箇条

- ア 過去は変えられる。幸せだと過去を乗り越えられる。人を幸せにするために、自分を幸せにして、過去とは自分と違う自分になれる。
- イ 理不尽からあなたを必ず守る。理不尽と覚悟することがあったら、抱え込まずにまず相談してほしい。
- ウ 学級とはあなた自身。クラスに対して不満があってもよくしていきたいと思ったときは、自分をよくすることから始めよう。

② リレーションを高める

新学期がスタートし、最初に行わなければならないことは、いかに学級のリレーションを高めるための手立てを講じることができるかである。なぜならば、多くの学校では1年生は複数の小学校から児童が集まり知らない級友との友人作りに不安を感じていること、2・3年生はクラス替えによる、新たな友人関係、新しい担任の先生との関わり方など、人間関係に不安を多く抱える時期であるからである。その中で、学級を生徒の一番の居場所とするためにも、4月にリレーションをどれだけ高めることができるかが、その学級の1年を左右することになる。具体的には、アイスブレイクの効果的な活用や、生徒が自ら考え、自分の考えを全員に示す機会を必ず設けることである。

③ 学級目標を更新制にする

学級目標を「○○なクラス」としたり四字熟語にしたりする例はよく見られるが、学級目標は更新制にすることがよい。なぜならば、そういう目標だと、具体的に何をしていけば達成できるかが不透明になり、生徒も何を持って目標を達成できたかが、見通しがたたなくなるからである。また、目指すべき具体的な短期目標を生徒自らに設定させ、短期的に達成できるものにすることで、達成感を実感でき、自ら改善策を考えることができる生徒の育成に繋げることができるためである。もし、長期的な学級目標を設定するならば、最終目標としての学級目標と、最終目標を達成するための短期目標を更新制で実施するのがよい。また、決められたペースでなくて良いので、折に触れて評価を自分たちで行い、マイナスが出たときは、何がマイナスなのか、どうすればプラスにできるのかをじっくり話し合わせることが大切である。

④ 学級目標の決め方

学級目標は、全員にアイディアを出させる。特に効果的なやり方は、黒板に場所を指定して全て書かせる。自分が学級の一員であるという自覚を持たせるとともに、学級を改善するためには何をすべきかを普段から考えることのできる生徒の育成に繋げることになる。また、決めたならば、達成するためにできるアイディアを考えさせ、話し合わせることで生徒同士のリレーションを高めていくことに繋がる。

○目的を共有し子供を急成長させる 行事指導編

「行事で勝ちにこだわるのではなく、「全員参加・全員本気・全員成長」を目標とする。」

なぜならば、勝ちにこだわりすぎると、学級の仲を深め成長を促すべき行事であるのに、逆に学級の仲が悪くなり、苦手を感じる生徒や意見の弱い生徒が攻撃対象となったり、陰口が横行したりする学級となる。しかし、「全員参加・全員本気・全員成長」を目標とすると、本気で頑張っている人には、うまくいかなくてもきつく当たることではない。本気で頑張ればきつく当たられないと分かれば、苦手と思っている生徒も安心して行事に参加でき、学級のために本気でやろうと考えることができる。そして、全員が本気で参加すると、結果として全員が成長できる。勝ち負けの結果は付くが、成長を実感できるため、次の行事にも全員が前向きに取り組み、生徒の内面が急成長することができる。

また、勝つことを目的とするのはなぜか？勝った結果以外に何が残るのか？勝つことの目的は何か？

をよく考えさせると、「全員参加・全員本気・全員成長」を目標にすることの意義を生徒も理解していくことができるので、勝ちたい理由もしっかり見つめさせることも大切である。

○「不登校ゼロ」など システムで問題を予防・解決する 学校改革編

①不登校の生徒を無理に学校に来させない

不登校の理由がよく分からないまま学校に無理に来させようとする、逆効果である。そのために、理由を探るところから丁寧に行うことが大切である。

②生徒たちが通うに値する学校を造る

不登校の生徒の数は、学校・学年・担任への通知表と捉え、自分は間違っていないと考えるのではなく、生徒が学校に通えるようにするためにできることの改善策を学校全体で話し合い、実行していくことが不登校をゼロにするために必要である。

③みんな同じじゃなくても大丈夫という雰囲気作り

1人1人が同じじゃないということは誰もが分かっているけれど、どこかで違う人がいると、つい指摘したくなる。他人と自分の違いをたくさん探すのではなく、自分の良いところをたくさん見つけ、自分を愛せることができるようになる、日々の声かけや実践が、自分が周りとは違っていても大丈夫という雰囲気作りに繋がり、安心感を生み出すことができる。

○模擬授業で力をつける 授業力養成編

①日々の授業での協働を大切にする

日々の授業でいかに教師が話をせず、生徒同士の協働で成り立つ授業にするかが大切である。しかし、何の手立てもないままに勝手にしゃべらせると混沌としてしまうので、混沌としないための授業ルール作りを年度当初にしっかり行うことが必要になる。

また、学び合いが大切だとよく言われるが、学び合いの前に助け合いを重視した方が良い。助け合いが授業でできると、相手の良いところがたくさん見つけやすくなり、リレーションが高い学級となる。そうすることで、自然と授業での協働学習に繋がり、生徒が活発に意見を交換できる授業にすることができる。

②生徒に匿名のアンケートで授業を評価させる

授業の内容は生徒にとって、分かりやすいものであるか、授業で協働学習の時間は確保されているのか、自分の能力が向上したと思えるのかなどのアンケートを授業者がとることが大切である。アンケートを匿名にすることで、生徒は正直な気持ちを記入することができる。その結果を授業者が真摯に受け止め、生徒にとっての良い授業となるように、日々の授業改善に取り組み、充実した授業にすることが大切である。

○子どものやる気を引っ張り出す長谷川博之のTHE 授業

講師が普段の授業の様子を録画したビデオを見ながら、具体的な手立ての例を参加者で確認した。

○千葉県教師との対談・Q&A 編

会場に直接参加した人と、オンライン参加の人が普段の悩みを話し合いながら、改善案を出したり聞いた。

4 感想

今回のセミナーに参加することで、普段見ることのできない他の教員の取り組みを知ることができた。中には、現在の学校として行っていることもあれば、自分が実践していることと同じこともあり、それは継続して取り組みたいと思った。行事指導に関しては、どうしても学級で勝つことを前面にしてしまうことが多く、勝てたときは学級が満足で終われるのは当然だが、勝てなかったときの不完全燃焼と学級内での責め合いがあり、どうしたら良かったのかと考えさせられる場面が多かった。「全員参加・全員本気・全員成長」を目標とした行事への向かい方は、来年度実践していきたいと思います。

教育研究会先進校等調査派遣研修に参加しなければ得られなかった学びや気づきが多く、参加することができてとても勉強になった。聞いて終わりではなく、実践し、自分なりの改善をすることで、より生徒のためになる学級経営を目指していきたい。